

令和4年度厚生労働科学研究費補助金（障害者政策総合研究事業）

分担研究年度終了報告書

相談支援専門員とサービス管理責任者及び児童発達支援管理責任者の連携に関する
評価ツールの開発のための研究

「相談支援専門員とサービス管理責任者及び児童発達支援管理責任者の連携因子の検討」

研究分担者 金澤潤一郎 北海道医療大学

研究要旨

相談支援専門員とサービス管理責任者及び児童発達支援管理責任者における連携について、全国調査から得られたデータをもとに、因子分析からその要因を明らかとし、連携評価ツール開発に向けた基礎資料を得ることを目的とした。2021年度に研究組織で作成に取り組んだ調査票による全国アンケート調査結果について、欠損値があるデータを除外したところ、2655件の回答が有効回答であった。因子分析の結果、4因子50項目に整理することができた。

A.研究目的

相談支援専門員と、サービス管理責任者及び児童発達支援管理責任者（以下、サビ児管）の連携評価ツール開発に向け、連携に関する評価尺度を作成する基礎資料を得ることを目的とした。

B. 研究方法

2021年度に研究組織で作成、合計9,000件の全国調査調査を行った連携に関する調査票（連携に関する項目57項目）についてSPSS（Ver.26）を用いて最尤法・Promax回転にて因子分析を行った。対象のデータは欠損値のあるデータを除いた有効回答は2655件であった。

（倫理面への配慮）

本研究は、北海道医療大学看護福祉学部・看護福祉学研究科倫理審査委員会によ

る審査の上、承認を得て実施した。

（21N020020、21N028027）

A. 研究結果

2021年度実施した全国調査の結果を用いて、最尤法による因子分析を行ったところ、4因子構造が妥当と考えられ、再度4因子を仮定して最尤法・Promax回転による因子分析を行った。さらに、因子で0.4未満の因子負荷量であったもの、または2因子以上で0.3以上の因子負荷量を示した項目を除外し分析した結果、50項目、4因子となった。回転前の4因子で50項目の全分散を説明する割合は56.302%であった。

第1因子は25項目で構成されており、「担当利用者のことで相談支援専門員またはサビ児管へ気後れせずに何でもきける関係を築けている」「相談支援専門員または

サビ児管に知りたいことを気軽に聞ける」など、相手とのかかわりに関する主観的内容の項目が高い負荷量を示していた。第2因子は9項目で構成されており、「利用者の支援を検討する会議（サービス担当者会議など）のときに、必要としていることを考えて情報提供をしている」「利用者の支援を検討する会議（サービス担当者会議など）での発言を積極的に行っている」など、会議の場などで直接やり取りを行う行動に関する内容の項目が高い負荷量を示していた。第3因子は10項目で構成されており、「所属組織内で連携に関する研修に参加する機会がある」「所属組織の中に、スーパービジョン（支援を検討するためのアドバイスなど）体制が整っていると感じる」など、周辺環境状況に関する内容の項目が高い負荷量を示していた。第4因子は6項目で構成されており、「支援計画（サービス等利用計画・個別支援計画）の見直しの際に、利用者に関連する他事業所も含めて変更内容を共有している」「支援計画（サービス等利用計画・個別支援計画）の見直しの際に、相談支援専門員とサビ児管で変更内容を共有している」など、支援計画に関わる行動に関する内容の項目が高い負荷量を示していた。（表1、表2）

また、内的整合性を検討するために α 係数を算出したところ、「第1因子」で $\alpha = .97$ 、「第2因子」で $\alpha = .873$ 、「第3因子」で $\alpha = .867$ 、「第4因子」で $\alpha = .873$ と十分な値が得られた。

D. 考察

第1因子は連携をとるための意識面に加

え、連携をとるための行動面に関する項目についても含まれており、項目数の多い因子となった。第2因子は連携を深める会議を中心とした行動面について、第3因子は連携を充実させる環境面について、第4因子は支援計画を通した情報共有に関する行動面に関する項目が集まっていた。第1因子については、項目数が多くなる傾向となるため、データ取集と分析を重ねて項目の整理が必要であると考え。また、得られた因子は項目設定時に仮説としていた意識面、行動面、環境面におおよそ集約していく結果が確認された。

E. 結論

相談支援専門員とサービス管理責任者及び児童発達支援管理責任者における連携について、全国調査から得られたデータをもとに、連携に関する57項目について因子分析を行った結果、4因子50項目に整理することができた。得られた結果を参考に連携評価に関する尺度として、連携評価ツールに活用していく。

F. 健康危険情報

特記事項なし

G. 研究発表

特記事項なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

特記事項なし

表1 因子分析結果

	1	2	3	4
担当利用者のことで相談支援専門員またはサビ児管へ気後れせずに何でもきける関係を築けている	0.942	0.022	-0.063	-0.154
相談支援専門員またはサビ児管に知りたいことを気軽に聞ける	0.918	-0.014	-0.01	-0.138
関わる相談支援専門員またはサビ児管の支援におけるつきあい方がわかっている	0.863	0.048	-0.02	-0.076
関わる相談支援専門員またはサビ児管から、互いを理解し、受け入れられていると感じている	0.851	-0.005	-0.019	-0.025
担当利用者のことで相談支援専門員またはサビ児管に躊躇せずに連絡ができる	0.845	0.012	-0.001	-0.161
相談支援専門員またはサビ児管とは、信頼感をもって一緒に仕事ができる	0.834	-0.006	0.008	-0.025
関わる相談支援専門員またはサビ児管の性格がわかっている	0.81	0.042	-0.04	-0.094
相談支援専門員またはサビ児管との情報共有のために、実際の行動を起こしている	0.809	-0.007	0.04	0.009
担当利用者以外のことについて、相談支援専門員やサビ児管へ相談できる	0.807	0.017	-0.062	-0.061
担当利用者のことで相談支援専門員またはサビ児管へ連絡のとりやすい時間・方法がわかっている	0.807	0.017	-0.078	-0.053
関わる相談支援専門員またはサビ児管の支援に対する価値観がわかっている	0.783	0.051	-0.031	-0.026
利用者の支援について修正すべき点に気づいた際、相談支援専門員やサビ児管へ意見を伝えられる	0.747	-0.035	0.019	0.061
担当利用者のことでかかわる相談支援専門員またはサビ児管の顔と名前がわかっている	0.735	0.008	-0.021	-0.07
相談支援専門員またはサビ児管に対して、ねぎらいの言葉や肯定的評価を伝えている	0.72	-0.041	0.039	-0.003
相談支援専門員またはサビ児管からの連絡への返答はできるだけ早く行っている	0.699	-0.008	0.109	-0.137
支援のための役割分担が相談支援専門員とサビ児管の間で明確にされている	0.682	-0.013	0.009	0.152
自身が提供しているサービス（支援）の具体的な内容を相談支援専門員やサビ児管に伝えている	0.669	-0.038	0.045	0.151
定期的な会議以外で、気づいた点の情報共有を相談支援専門員とサビ児管で行っている	0.657	-0.051	0.018	0.151
相談支援専門員またはサビ児管が提供しているサービス（支援）の具体的な内容について情報収集している	0.652	-0.032	0.013	0.233
必要な情報はリアルタイムに（素早く）相談支援専門員とサビ児管で共有を行っている	0.649	-0.047	0.025	0.108
相談支援専門員またはサビ児管の所属している事業所の理念や事情がわかっている	0.638	0.051	-0.031	0.093
利用者を中心とした支援のためのやりとりを行っている	0.61	-0.029	0.088	0.073
決められた会議の開催がない時期も相談支援専門員とサビ児管で定期的に連絡を取っている	0.589	-0.004	-0.044	0.211
利用者のことで初めてかかわる相談支援専門員またはサビ児管とは、集中的に連絡を取るようにしている	0.579	0.007	0.002	0.218
相談支援専門員またはサビ児管が関わる個別の課題について、必要に応じて地域の課題として広く共有している	0.521	0.048	0.041	0.222
利用者の支援を検討する会議（サービス担当者会議など）のときに、必要としていることを考えて情報提供をしている	0.026	0.844	0.001	-0.12
利用者の支援を検討する会議（サービス担当者会議など）での発言を積極的に行っている	0.005	0.813	0.011	-0.083
利用者の支援を検討する会議（サービス担当者会議など）での内容を支援計画（サービス等利用計画や個別支援計画）に反映させている	-0.028	0.754	0.002	0.036
利用者の支援を検討する会議（サービス担当者会議など）の欠席時は、記録などの情報を共有している	-0.029	0.689	0.005	0.044
相談支援専門員及びサビ児管がいる利用者の支援を検討する会議（サービス担当者会議など）を主催している	-0.017	0.665	0.009	-0.016
相談支援専門員及びサビ児管がいる利用者の支援を検討する会議（サービス担当者会議など）の記録を共有している	0.017	0.649	0.017	0.029
支援計画（サービス等利用計画や個別支援計画）の内容について意見交換をしている	0.024	0.612	-0.031	0.141
サービス等利用計画の内容について、相談支援専門員とサビ児管で相互に確認している	0.022	0.497	-0.003	0.219
相談支援専門員及びサビ児管がいる利用者の支援を検討する会議（サービス担当者会議など）に参加している	0.013	0.44	0.006	-0.017
所属組織内で連携に関する研修に参加する機会がある	-0.041	0.001	0.717	-0.036
所属組織の中に、スーパービジョン（支援を検討するためのアドバイスなど）体制が整っていると感じる	-0.059	0.009	0.715	0.011
所属組織外で連携につながる研修に参加する機会がある	-0.03	0.021	0.699	-0.034
所属組織がある地域に、スーパービジョン（支援を検討するためのアドバイスなど）の環境が整っていると感じる	-0.081	0.02	0.694	0.043
メールやICTを活用した情報交換が求められたときは十分に対応できている	0.179	-0.015	0.615	-0.04
利用者を取り巻く地域資源への連絡先を把握している	-0.065	0.008	0.585	0.018
利用者の状況が急に変わったときの対応や連絡先を決めている	-0.057	-0.017	0.558	0.036
必要時にすぐにアクセスできるように利用者の記録情報がわかりやすく整理されている	-0.022	-0.004	0.554	0.011
所属組織では、オンライン会議が可能な通信環境が十分に整備されていると感じる	0.135	-0.003	0.553	-0.018
オンライン会議の案内があった際は、会議に参加できている	0.16	0	0.542	-0.027
支援計画（サービス等利用計画・個別支援計画）の見直しの際に、利用者に関連する他事業所も含めて変更内容を共有している	-0.06	0.01	-0.008	0.855
支援計画（サービス等利用計画・個別支援計画）の見直しの際に、相談支援専門員とサビ児管で変更内容を共有している	0.092	-0.036	-0.014	0.818
モニタリング報告について利用者に関連する他事業所と共有している	-0.008	0.044	-0.002	0.706
支援計画（サービス等利用計画・個別支援計画）の目標の運動について相談支援専門員とサビ児管は相互の合意を得ている	0.178	0.003	-0.007	0.684
利用者のモニタリング報告について相談支援専門員とサビ児管で共有している	0.212	-0.036	0	0.587
支援計画書（サービス等利用計画書・個別支援計画書）について利用者に関連する他事業所のものすべてを保持している	0.055	0.129	0.027	0.409

因子抽出法: 最尤法

回転法: Kaiser の正規化を伴うプロマックス法

a 5 回の反復で回転が収束しました。

表2 因子相関行列

因子	1	2	3	4
1	1	0.208	0.367	0.631
2	0.208	1	0.045	0.305
3	0.367	0.045	1	0.239
4	0.631	0.305	0.239	1

因子抽出法: 最尤法

回転法: Kaiser の正規化を伴うプロマックス法